

2013年8月20～23日の宮城県東松島市における交流ボランティア

～四日市東日本大震災支援の会 第18回派遣 活動報告～

四日市東日本大震災支援の会

代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

<活動の概要>

震災から2年半がたとうとしています。われわれが継続的に支援をしている宮城県東松島市では、ようやく復興への動きが見られるようになりましたが、まだ多くの方が仮設住宅で不自由な暮らしをしています。今回の派遣では、1日目を仮設住宅での交流イベント開催、2日目を現地学校との連携ワークショップにあて、現地2泊車中2泊両夜行での派遣でした。1日目は宮城県東松島市矢本運動公園仮設住宅でBBQ交流会を開催しました。2日目は、三重と宮城の高校生が交流・議論することを通じ、今後の高校生としての東北支援のあり方を考え、同時に三重県における防災に高校生がどのような貢献ができるのか議論しました。また、大学生は、来年3月に計画している、大学生の専門知識・技能を災害時に生かす仕組み作りに向けたワークショップについてヒアリング調査をしました。

■被災地視察

壊滅的被害を受け移転した東松島市野蒜地区の鳴瀬第二中学、津波で全世帯が被災して300名以上が亡くなった東松島市大曲浜、小学生74名が犠牲になった石巻市大川小学校を視察しました。母校や自宅を失った被災者の気持ちを知り、被災者に寄り添って支援を続けることの必要性や重要性を学びました。

■仮設住宅交流会

東松島市の約400世帯が暮らしている矢本運動公園仮設住宅で、仮設住人300名を招待して焼きそば&BBQ交流会を開催しました。調理器具、テント、机・イスなどの資材調達などは、仮設の皆さんが準備してくれました。また、イベントの告知を兼ねて、全戸別訪問して見守り巡回をしました。

■仮設住宅自治会長講話

矢本運動公園東自治会会長の小野さんより、壊滅的被害を受けた東松島市大曲浜での被災体験について話していただきました。また、高校生や大学生がいかに災害時に役立つか、実際の体験から説明いただき、次の災害に備えて何をすべきなのか、ヒントを得ました。

■仮設住宅生活体験

矢本運動公園仮設住宅の集会所(男子が東集会所、女子が西集会所)で宿泊し、仮設住宅での暮らしを体験しました。寝袋は、自治会が寄贈を受けたものを使用させていただきました。翌朝は、炊き出し研修を兼ねたポリ袋炊飯で作ったごはんとレトルトカレーで食事をとりました。

■宮城の高校生とワークショップ&交流会

津波が学校の近くまで押し寄せ避難所や災害対応拠点になった経験を持つ宮城県石巻西高校で、被災体験から得た教訓などを伝えるプレゼンを協働で作成するワークショップをしました。午前中は被災時の高校がどんな様子だったのか、将来に予想される大災害に日本人はどう対応すべきか校長先生と生徒に講演いただきました。それを踏まえ、われわれ高校生が三重県に帰って「伝える」ためのプレゼンテーションを作成しました。この交流の中で、われわれの活動の状況を現地高校生たちに伝え、今後は連携して被災地支援にあたることを話し合いました。

■宮城の看護学生とのミーティング&交流

支援の会では、高校生・大学生が災害時に果たす役割を研究し、安全に災害時に活動する仕組みを構築しようとしています。看護師を目指す学生たちは、避難所における衛生管理・要援護者の支援など、できることが多くあります。スポーツ部の学生は、泥カキやガレキ撤去などで体力を活かすことができます。パソコンが得意な学生は、避難所の名簿管理、ネットを活用した安否確認、手続きの支援などが可能です。今回は看護師を目指す学生が、宮城の大学や専門学校で同じ目標を持つ学生と繋がり、2014年3月に交流会とワークショップを開催するための話し合いを持ちました。

■東北ボランティア報告会

三重に帰着した23日の午前に、一般の方にも開放して報告会を持ちました。高校生たちは現地で作成したプレゼンを披露しました。大学生は現地での活動について報告しました。また、地元の新聞・テレビなどの取材も受けました。

<参加者41名(三重県からの参加者の数)>

四日市大学	学生5名+教員1名
四日市看護医療大学	学生4名+教員2名
桑名北高校	生徒3名+教諭1名
暁中学高等学校	生徒11名+教諭2名
四日市四郷高校	生徒6名+教諭1名
津高校	生徒4名+教諭1名

<スケジュール>

- 8月20日(火曜): 18:00 四日市看護医療大学 40B 教室集合、事前打ち合わせ
⇒19:00 出発(四日市大学バス停)
- 8月21日(水曜): 宮城県東松島市～激甚被災地を視察(鳴瀬第二中学、大川小学校)
⇒ 矢本運動公園仮設で降車、荷物の搬入
⇒ 11:00～集会所で昼食
⇒ 午後は見守りとイベント告知を兼ねた戸別訪問、BBQ 準備(テント設営)
⇒ 夕方から BBQ 交流会
⇒ 20:00～石巻市のスーパー銭湯、元気の湯で入浴
⇒ 21:00～振り返りミーティング、自治会長講話
⇒ 仮設住宅生活体験(集会所で宿泊)
- 8月22日(木曜): 6:00 起床、炊き出し訓練を兼ねた朝食
<高校生>
⇒ 9:00～石巻西高校での交流ワークショップ
・石巻西高校校長先生による講演「10年後の日本」
・石巻西高校生徒との意見交換会
・昼食;石巻西高校食堂
・高校生混成チームに分かれ、パワーポイントで発表準備
・16:00～発表会
<看護医療大学>
⇒ 9:00～石巻西高校で講演を聴き、10:30 石巻に向けて出発
⇒ 石巻赤十字病院附属看護専門学校でヒアリング
⇒ 石巻赤十字病院の視察
⇒ 宮城大学看護学部の学生にヒアリング
<宮城大学で大学生と高校生が合流>
⇒ 仙台で入浴 ⇒ 帰路に
- 8月23日(金曜): 朝7時頃に四日市大学帰着、朝食、片付け
⇒ 9:00より、公開で振り返りプレゼン
⇒ 11:00頃解散

<協賛>いつも、ありがとうございます! *敬称は略させていただきます

★菊屋・太白永餅金城軒・紅屋・あきぞう、以上4店舗のお菓子屋さんより、お茶会用の三重の銘菓の提供を受けました(合計約300個)。

<経済オフセット>持ち込んだ三重産より多くの東松島産品を消費

- ・BBQ 交流会の食材＝東松島市内で被災して営業再開したファミリーハウスみちのくから購入
- ・昼食の弁当など＝東松島市内で被災して営業再開したスーパー、サンショップで購入
- ・みやげ(菓子)＝東松島市内で被災して営業再開した菓子屋、ジュリアン、おおみちから購入
- ・みやげ(日本酒)＝宮城県内の被災した酒造メーカーの酒を東松島市内で被災した酒屋から購入
- ・みやげ(のり)＝東松島市の月浜で操業再開した海苔生産者より購入

<助成金>

★赤い羽根の中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」の助成を受けて活動しました。





大川小学校の慰霊碑で黙とう



東北放送の取材



石巻西高校の被災体験を聴く



鳴瀬第二中学の窓から見る野蒜海岸



仮設住民と協働で焼きそば



石巻西高校でのワークショップ



黒板に書かれた卒業生の寄せ書き



高校生も一緒に BBQ を食べる



災間をどう生きるかプレゼン



慰霊碑の前で被災体験を聴く



集会所で宿泊；就寝前のひと時



石巻西高校前での記念撮影



矢本での BBQ 交流会



朝食で炊き出し訓練



帰着後の公開報告会